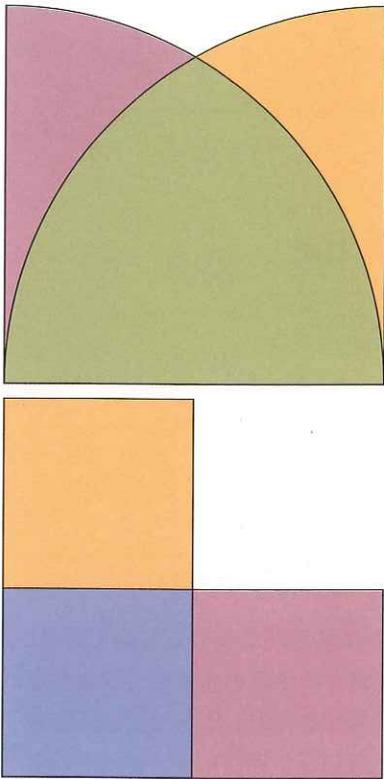


学習院大学史料館

## ミュージアム・レター

Gakushuin University  
Museum of HistoryMuseum Letter  
No.20

発行日 ● 平成24年(2012)9月10日

もくじ

ごあいさつ……1

「近代日本の学びの風景—学校文化の源流—」展の開催にあたって……2-3

Information……4

- ・「近代日本の学びの風景—学校文化の源流—」展のご案内
- ・第69回学習院大学史料館講座のお知らせ

## 1. ごあいさつ

学習院大学史料館では、10月1日から「近代日本の学びの風景—学校文化の源流—」展を開催いたします。次年度、文学部教育学科が発足(認可申請中)することを記念し、新学科開設準備室と共催で行うものです。

展覧会では初等教育に関わる展示が一つの中心となりますが、初等教育、つまり小学校といえば、誰しも思い出すのはランドセルでしょう。小学生のトレードマークのようなあの独特の通学かばんは、明治期に学習院初等学科において誕生したといわれます。両手が自由になる上、重さが両肩に均等にかかるので、肩掛けや手持ちのかばんよりも「子供に優しい」といえそうです。ただ、今日の合成皮革製と違って本革製の昔のランドセルは相当に重かったはずで、さらに、6年間使うため、1年生には大きすぎ、6年生には小さすぎるといった問題が起こりがちだという事情は、今も変わらないかもしれません。1年生から6年生まで——心身ともに大きく成長し変化する7歳から12歳まで——が同じランドセルを使うことから生じる問題は、小学校教育の難しさを象徴しているように思われます。小学校教員を特別に養成する教育学科が必要である理由は、まさにその点にあるのでしょうか。

教育の場で視覚的な教材が非常に有効であることは特に説明を要しないと思います。本展で取り上げる明治・大正期の教育においても、模型や標本や掛図など、教科書の文字情報を具体的な形で見せることのできる教材が盛んに用いられました。手で触れることのできる(多くの場合、実際に触ることは厳禁だったとしても)こうした教材は、今日のデジタル画像よりもはるかに強いインパクトを持ったかもしれません。これら多様な教材は、明治・大正期の初等教育の充実ぶりに改めて気づかせてくれます。もっとも、日本全国どこの小学校にもこのような教材が備えられていたかどうか、それは疑問です。

本展開催にも、いつもながら多くの方々のお力添えをいただいています。特に、小学校関係の展示品につきましては、学習院初等科の多大なご協力を得ております。また、本展のもう一つの中心となる『校友会雑誌』に関しては、共催者である教育学科開設準備室を通じて、「学校文化史研究会」の皆様のご協力をいただきました。記して御礼申し上げます。

(館長 高橋裕子)



① 学習院ランドセル 学習院初等科蔵

平成24年度 学習院大学史料館特別展  
 学習院大学文学部教育学科開設準備室共催  
 「近代日本の学びの風景－学校文化の源流－」展  
 の開催にあたって

学習院大学教授・文学部教育学科開設準備委員

齊藤利彦

近代日本の学校の学びの風景とは、おそらく多くの人にとって、黒板を背にした教師が教壇に立ち、教室のすべての生徒が皆教師の方を向いて授業を受けるというものではないだろうか。確かにそれは、1872(明治5年)の「学制」発布以来、一貫して導入された「一斉教授」の授業の風景であった。それは、いくぶん形態を変えながらも、今日まで続く主要な授業のスタイルである。

しかし、心の目を凝らしてさらに思い出をたどれば、そこには学びの風景をより具体的に彩る多くのものがあつたはずである。例えば、生徒たちが座って勉強していた机や椅子、その机の横にはランドセルが掛けてあつたかもしれない。学校での机と椅子は、通常は二人用または三人用のものであつたが、あえて一人用を備える学習院初等科のような例もあつた。そして、机の上には、教科書やノート、鉛筆や筆箱がおいてあつたのではないだろうか。小学校の教室にノート(雑記帳)や鉛筆が普及するのは、洋更紙が安価となり、国内で鉛筆の大量生産が可能となった、第一次世界大戦以降のことである。

また、教室には時間割や掛図が掲げられ、授業によっては天体儀や白地図、そして様々な標本等の多様な教材や教具が用いられていたのであろう。この時間割は、個別学習を

基本とする近世の寺子屋では見られなかったものであり、多くの教科を効率的に生徒たちに学習させる近代学校ゆえにあみ出された授業の計画表であつた。また掛図は、国定教科書が導入される1904(明治37)年以前には、すべての生徒が一同に観覧できる主要な教材としての役割を持っていた。

そして、学習が一定進んで区切りの段階になると試験が行われ、学年の末には成績表が配られ、修業証書や卒業証書が授与されていたはずだ。この試験という制度は、先述の「学制」が「生徒及試業ノ事」と定めていたことから分かるように、日本の近代学校が登場した当初から実施されていたものであつた。「生徒階級を踏む極めて厳ならしむ」「毫も姑息の進級をせしむべからず」(「学制着手順序」)と定められ、1900(明治33)年の小学校令施行規則の制定までは、小学校においても進級試験と卒業試験が厳密に行われていた。

そして学校行事もまた、学びの風景の一つと数えられるだろう。運動会や修学旅行、夏休みの楽しさも思い出される。夏休みの宿題を、やっと仕上げた体験もあつたろう。運動会は、近隣の人びとが集う、地域の祭りでもあつた。修学旅行は、当初は男子が軍隊の「行軍」を真似て行う徒歩

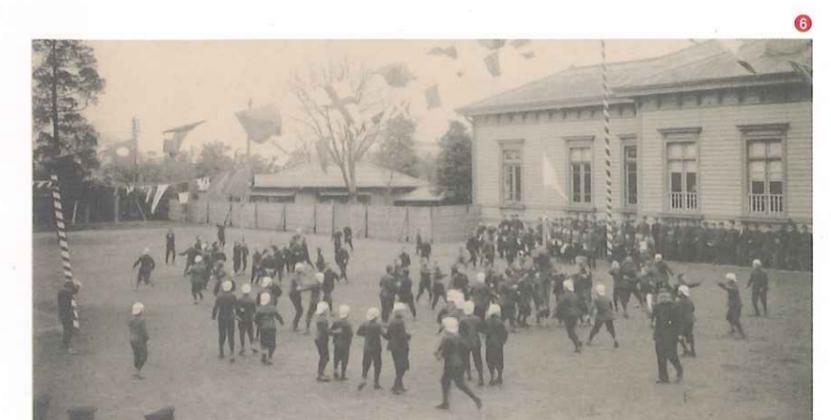
の旅行として始まった。明治30年代の鉄道の発達とともに、女学校でも実施されるようになり、史蹟の探訪や名跡の学習を目的とする「学術研究」の役割も合わせ持つようになっていく。

以上に述べてきたすべてが、学びの風景として存在し、あるいは逆に、学ぶという行為そのものが、それらによって支えられていたといえるだろう。ここでは、学びの空間である学校という固有の風景を彩る様々のもの、学校という空間の中での生徒たちの行動の様式、それらを「学校文化」という表現でとらえてみたい。この企画は、そうした意図を持って創り出されたものである。

同時に、生徒たちは、単に学ぶというだけの存在ではない。生徒たち自身が様々なものを創り出し、表現していたということも忘れてはならないだろう。それらが集約されている一つの形式が、『校友会誌』である。そこには、生徒たちの学びの成果ともいえる作文や創作の多様な作品や、自主的な運動部や文芸部の日常的な活動が表現されている。まさに「学校文化」の華ともいえる貴重な記録である。こうした多様な学びの風景を一同に集め陳列して、近代日本の学校の学びの風景の一コマを伝えようとするのが、この企画である。



- ② 尋常小学校教科書 大正～昭和初期 個人蔵
- ③ 学習院初等学科机懸掛 明治期 学習院初等科蔵
- ④ 地理授業(初等学科第四年級南組)「大礼奉獻学習院写真」  
学習院大学史料館蔵
- ⑤ 平田義温 夏休宿題 大正13年、  
同 富士山の研究 大正15年 学習院大学史料館蔵 三島家資料
- ⑥ 学習院初等学科運動会写真  
大正2年10月19日 学習院大学史料館蔵 高松家資料
- ⑦ 愛知県瀬戸市道泉尋常小学校賞状  
昭和5年3月22日発行 学習院大学教職課程研究室蔵
- ⑧ 校友会雑誌 明治20年代～昭和初期 学習院大学教職課程研究室蔵



平成24年度 学習院大学史料館特別展  
学習院大学文学部教育学科開設準備室共催

## 「近代日本の学びの風景—学校文化の源流—」

【会場】 学習院大学史料館展示室(北2号館1階)  
入場無料

【期間】 平成24年10月1日(月)～12月1日(土)

【閉室日】 日曜日、祝休日、10/17(開院記念日)、  
10/26～27(四大戦期間)、11/1～11/5(大学祭期間)

【開室時間】 平日10:00～17:00

土曜日10:00～12:00

・10/6(土)、10/20(土)、11/24(土)は

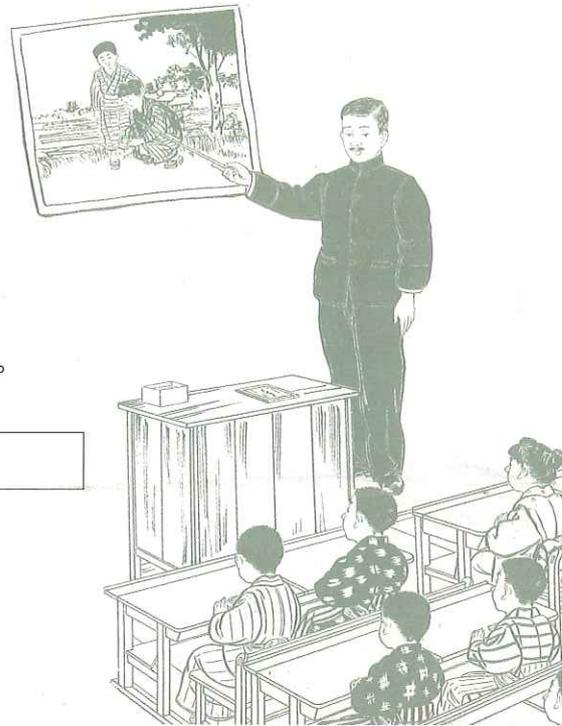
土曜日の開室時間を延長(10:00～17:00)いたします。

開室時間が前回展示と異なりますので、ご注意ください。

### ギャラリートーク

10/20(土)14:00～ 11/9(金) 14:00～

※事前申込不要



## 第69回 学習院大学史料館講座のお知らせ

「教育の力 時代を超えて今に生きるもの  
—戦前・戦中・戦後 女子学習院から学習院女子部へ—」

日時 平成24年11月24日(土)14:00～16:00

講師 代表/西尾珪子氏(公益社団法人国際日本語普及協会 会長)

倉本玲子氏、武井絢子氏、宮崎茂子氏、須山名保子氏(構成担当)  
(学習院女子部常磐会 第63回卒業生、「昭和を生きて」編集委員会)

\* 学習院創立百周年記念会館 正堂

\* 入場無料・事前申込不要

今はなき青山の華麗な校舎に通っていた女子学習院生たち。やがて太平洋戦争に突入し、疎開先や臨時の校地で過ごす日々が始まった。敗戦を12歳前後で迎えた彼女たちは、元近衛騎兵聯隊の兵舎を校舎として使用しながら、何を見、何を体験し、何を感じたのか。激動の時代の中にも息づいた学習院の教育の力をいま改めて考える。

学習院大学史料館 ミュージアム・レター第20号

2012年9月10日発行

〒171-8588

東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(3986)0221

内線 6569

FAX 03(5992)9219

Gakushuin University Museum of History

学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>